

芸術文化創造センター第1回 意見交換会 概要

日 時：平成 26 年 8 月 23 日（土）14 時～17 時 40 分

場 所：小田原市役所 大会議室

1 開会（進行：間瀬担当課長）

- ・ 諸星文化部長あいさつ
- ・ 本日の流れの説明、傍聴にあたっての注意事項、質問用紙についての説明
- ・ これまでの開催経過について説明（地域説明会、市民説明会の報告含む）

2 意見交換会

(1) 実施設計の検討状況（榊新居千秋都市建築設計 新居千秋氏）

今日は私と吉崎の 2 人だけしか出席していないが、若いスタッフは事務所で作業を進めなければ実施設計が間に合わない状況になってきている。

基本設計がようやくまとまったと思ったところで、様々な課題が出てきた。樹木の保存、敷地内に車寄せを設けること、大ホールホワイエのエレベータが 4 階まで行くようにすること、南側に敷地内通路を設けること、またそこで消防活動が可能かどうか、といったところである。この 1 ヶ月間僕らの方で見直しを行ってきた。

樹木の保存については、パブリックコメントでもご意見が出ていたが、最初に僕らが頂いた情報では、この木については何も触れられていなかった。それで移植すればよいと考えていた。しかし、先日、市民の方とお話して反省し、やはり残した方が良さだろうと考え直した。横断歩道等を変更することもなくそのまま、計画していた庇を切れば対応可能ではないかと検討した。木が倒れることが心配だとか、切ってしまった方がよいというご意見もある。しかし、300 年続いた由緒があるかもしれない木であり、また、由緒のあるなしに関わらず、あと 100 年すれば、市民がこの木を残したということで、その歴史的重みも深まると思う。今、生きている木であれば、残しておいた方が良さだろうと考えるようになった。基壇も含めて、これから周辺を調査して頂き、不幸にも台風や大雨が来た時には諦めて頂いて、同じ場所に木を改めて植える等の対応が必要になるが、基本的には「残そう」という方向で考えた。

2 つ目は敷地内通路の問題だ。安全性や生活利便性がどうか、という声があった。実施設計中に建物を変更すると時間的には間に合わないのではないかと不安もあるが、とりあえず検討した。建物を少しだけ西に移動して、1.4m の敷地内通路を設けた。躯体の厚みを縮めたり、機能が阻害されない部分で色々なところを削ったりした。祐天寺にある僕らの事務所のそばの小学校もこのようになっている。生垣や全体に待避スペースを設けて、壁面線も後退させれば実現できるのではないかと、いうところまで検討した。消防署にも話を聞きにいき、備えている全車種を確認し、先方でも確認しているが、僕

らの方でも回転半径を見て、全ての車が回れるということを確認した。待避スペースを設けて、ゴミ収集、宅配、小型トラックが入れるものであることも確認した。今の僕らの計画ではそれらは可能である。さらに、消防車の中でも最も大きいはしご車が来た場合のシミュレーションも行った。はしご車は脚が出て倒れないようにするため、停める場所を確保し、緑地の位置を調整して、作業をすることが可能だということを検証した。僕らの見解では、全て、ギリギリではあるが、入ることができる、という判断である。

そして、そのために建物の方をどう変更したかについて言えば、すべての機能に対して痛み分けである。小ホールも小さくなった。音のシミュレーションもやり直し、295席になった。ギャラリーも面積を減少している。大ホールはホワイエエレベータを上階までいくように変更したこともあり、構造が変わり、客席数も減っている。エレベータの変更で5,000万円くらいは増額だが、技術的には可能である。大スタジオも機構等を含めて検討し直している。この建物はスタジオとホールホワイエの間のあたりに様々な機能が集約していて、なかなか難しい。その位置に上階までいくエレベータを、遮音を確保した上で設けている。エレベータの停まる一番上の階は、その乗降スペースとして2.5m角程度の場所が必要であり、そのために25席程度客席を減らし、現在は1,146席となっている。両側から押されているので、きちんとした居住域空調ができるように、いま、設備の調整をしているところだ。基本設計時の位置と、現在の位置と異なっていることが、図を見ておわかりいただけると思う。うちの構造も苦戦をしているが、一応できるだろうということで、エレベータの位置を変更している。コスト的にどうしても無理であれば、2階までしか停まらない形で、将来的に上までいくように考えている。音は守られた形になっている。

ギャラリーは、基本設計の最終段階で準備室が必要というお話しがあり、それを設けて、解決したかと思ったところで、この敷地の問題が発生した。車両の待避スペースをとり、ギャラリーで15㎡ほど面積を減らした。パネルについては、近隣のポーラ美術館等を調査した。市民の展覧会は、今までは3階でバラバラにやっていたものが1階で一体的にできるようになる。ただし、渡り廊下まで含めて800㎡くらいあったので、それと同じだけあるかと言われると、それは難しい。大スタジオは、モディリアニ展をポーラ美術館でやっているが、そのシステムを改良し、十字形が置けるか、部屋を2つに区切ることができるようにしている。その大スタジオと、ギャラリーとオープンロビー全体で考える。オープンロビーを概観してくると1.5倍くらいになる。ギャラリーは吊られたパネルで、大スタジオは箱状のもので、それを解体すると、すべて並べることができる。今は考えている。最近はお堀端画廊やギャラリー新九郎と比較してどうかという話が出ているので比較をお見せする。大スタジオのパネルは、ポーラ美術館のものと同様なものを考え、ポーラ美術館では箱の上部から突き出したように照明があるが、ここでは上から壁面にきちんとあてられるように検討している。オープンロビーまであわせれば、ポーラ美術館に近いくらいの機能を持つものになると考えている。オープンロ

ビーのカフェ側には柱がおりてこなくてはならず、そのピッチで割り付けると、それを利用した壁面でもかなりの展示ができる。ただし、その時期に大ホールで同時に開催されるものがあれば、皆、絵を見ながら通らなければいけないということはある。

ギャラリーが 15 m²減り、小ホールが 30 m²減り、大ホールが 11 m²減り、建物としては真っ直ぐにし、重い荷重をここに預けている。斜線制限が厳しいので、一番上の梁が 300 とか 400 くらいである。二次部材が滑落しないように、劇場の上のストラクチャーと、市来委員等と検討している技術諸室の位置を調整しているのが、現在の作業だ。

舞台設備については、市来委員をはじめとする専門家の皆さんと東京の僕らの事務所で打ち合わせをしている。バトンの積載荷重が 1t であるとか 750kg であるとかについても検討している。僕らは 650kg で設計したが、今、見直している。そうした修正をしていけば、お金は段々わからなくなってきたが、それを除いては日本で最強の建物の一つになると思う。僕らがこれまで他のまちでつくってきたホールで賞をもらったものもあるが、機能的に言っても、そういったホールよりも強い。舞台機構としては、今までの僕らのつくってきたものの中でも最強になり、更に大スタジオも付いている。全体としては、原則的に無駄はこれ以上ないというところで、面積的にも限界だと思っている。

城下町ホールが 9,400 m²であった。今は 10,074 m²くらいになっている。もとの城下町ホールの小ホールは、なんとなく多目的な大きな部屋がある、といったところだった。これは 800 m²ほど足さなければ絶対に機能しない。さらにギャラリーや創造活動の諸室も足されている。設計当初の 11,000 m²からは、機械室等をコンパクトにし、またそれぞれの機能に近い位置に配置も変更している（例えば大ホールは大ホール、大スタジオは大スタジオの側にといい具合に）。城下町ホールで 57 億円だったものを、2,000 m²近くを足し、3 億だけを足した、というところが、僕らは一番辛く、乗り越えられるかどうか、これからやってみなくてはわからない。

城下町ホールと比較して見ていただければ、大きさを見ていただいても違うことがわかると思う。部屋やホワイエは増えた。トイレは僕らの設計史上最大個数が入っているので、問題はないと思う。小ホールは、城下町ホールと違って完全な小ホールになっている。調整室等もすべて付いている。この規模で、普通の、例えば新潟の 10 万人くらいのまちでは、これがメインホールくらいのもんだ（ただし客席数は 400~500 席程度）。客席数は異なるかもしれないが舞台は変わらないものがついている。1,000 m²くらいある。今、他の都市で発表されている設計コンペでは、大ホール部分だけで 50 億というものもある。エレベータについては、先日の時点では申し訳なかったと思う。以前の位置ではどうしても上階客席にぶつかってしまうので、プラン、セクションを全て変更して、今、つくっている。城下町ホールと比較して頂ければ、舞台も大きいことがわかっていただければと思う。確実に、機能は、日本最強のものの一つになっていると思う。

城下町ホールでは地下に大きな空間があったが、僕らは地下を減らし、掘削量をできるだけ少なくすることで、舞台機構などにお金をまわそうとしている。頼まれているわ

けではないが、倉庫的なものもないと使えないだろうと思い、少し地下に足している。大ホールは視線のチェックを行っているところである。音のシミュレーションは、建物を変更したりしたため、やっとこれから、何か月かかけて行うことになる。

城下町ホールでは、小ホールは平土間のものでバックスペースも何もなかった。今は、楽屋が付き、技術関係の部屋は控室も入れた。どんなに僕らが面積を削っても、現在の計画案と城下町ホールの差は 819 m²ある。しかし、どなたに見て頂いても、無駄にしているところは一箇所もないし、使いにくいこともないはずだ。もぎりの人の部屋なども全てとった。今度、専門委員の人達とも会うが、専門委員から学んだこともある。小ホールと大ホールは、一体的に備品が運べるようにもできている。

城下町ホールにはなかった展示機能がある。オープンロビーでの展示については、これまで不明瞭だったが、鉄の柱が 2.1m ピッチくらいでおりてくるので、そこに、上手く吊れるように考えているところである。

創造支援機能についても、城下町ホールでは 1 階、2 階、3 階に分散されていたが、今の計画では 2 階に集約している。大スタジオだけは 1 階だが、使い勝手は格段に伸びていると思う。中スタジオは切り離してホール機能と一体的に使えるようになっている。ワークショップが出来る部屋や、市民の人達がいられる部屋も設けたので、これくらいが限界かなと思っている。

交流機能については、以前の計画では喫茶店を通して逃げなくてはならなかったが、そんなことにはならないように、条例等も確認し、市役所の担当者とも打ち合わせて、階段の幅や、各ゾーン毎に安全に逃げられるか等を検討している。小田原市の条例は、東京都の倍くらい必要な階段の量が多い。それを直し終えたところだ。

機械室等については、皆さんとはあまり関係のないところかもしれないが、城下町ホールでは 1 箇所にとめていたものを、今の僕らの計画では、その場所毎に分散して設けようとしている。設備機器を入れられるかどうか難しい。理論的には入っているが、2 ヶ月ちょっと設備と打ち合わせをしている。動線もあわせて縮まることで、城下町ホールとの比較でマイナス 831 m²縮め、全体として 600 m²オーバーくらいに、機能を残しながら検討している。

立面については、プロポーザルの時点と変更している。全面ガラスで提案したが、ガラスを全て止め、必要なところのみに窓を設けている。あと 500 枚くらいガラスを減量するつもりである。一つの部屋で必要最低限の窓をつけるくらいに減らさないとコスト的には可能にならない。今、何ヶ月間かけて、排気、換気、採光でどの窓が必要かをチェックしている。

景観評価員ともお話したが、緑を残した方がよいか、とか、塀をどうするか、といった話をしている。塀は止めて緑を増やそうなどという問題は解決している。あとでモニターしたのを見て頂くが、松が残るとよいと思っている。今は、市来委員たちと検討して、小ホールのフライタワーを削ろうとしている。音のシミュレーションもあわ

せて進めなくてはならないので、時間がかかっているが、高さを低くし、シンプルにしていこうとしている。全体に、材料としてはコンクリート打ちっばなし以外に出来ない。何かを貼るといったことは今のコストではできない。外観イメージをご覧いただく。あと、フライをどれだけ縮められるかは、吊り上げる機構を検討して、性能を落とすことなく、コストと高さを縮めようと検討している。

先日、景観評価員にもご説明し、きちんとやっていると評価していただいた。全体に木の数もあり、いらぬものを削って、できるだけシンプルにやっていく。屋根の形状は鳥がフンをしても、斜線をオーバーしてしまうくらいギリギリである。構造的にも相当頑張っている。今は躯体量を減らすことを検討して、いらぬ壁を全部削ろうとしている。そうやって捻出出来るお金で、皆さんの言っていることを全部実現するのに使って、なんとか突破できるかどうか、というのが今の状況である。天空率もギリギリで、あと 10 cm あげられるかどうか分からない。僕らの今の戦いは限界値に来ている。

基本設計時のパースイメージに松を貼り込んだモンタージュを見ていただく。ついでにこのあたりに少し緑を植える。こうしたところから松が見えるのはマッチしているのではないかな。なるべく環境をよくしようと考えている。外観は全くツルツルのコンクリートというわけにはいかないで、少し凹凸とした感じで出来ればよいと考えている。ただしコストによる。中から見ると微妙ではあるが、桜が見えてくる。

こうしたものを今の敷地に、模型と一緒にモンタージュした、景観シミュレーションをお見せする。今はこういったシミュレーションを行いながら、昔からあった環境に配慮して検討を進めている。

実施設計というものを皆さんが簡単に考えていらっしゃるかもしれないが、そう簡単に色々なものを動かすことはできない。これくらいで足すのをやめていただきたい。エレベータのコストが突出した部分については、他で減らせないか等、色々検討している。今の実情としては、10,074 m²であり、城下町ホールに 600 m²ほど足して、1,800 m² 分くらいの機能を減らさないようにしている。展示のパネル等についても、美術館でそれほど問題ないようなしっかりとしたものを考えている。以前は全て吊ろうと思っていたが、今は置くことを考えている。必要であればポーラ美術館に見に行ってもらえば、幅の広い、地震でもひっくり返らないようなものを、改良して大スタジオも展示にも使えるようにしている。検討としては、このようなものである。

(2) 管理運営の検討状況 (間瀬担当課長)

管理運営分科会での検討状況について報告する。第1回目の専門分科会が7月6日に、第2回が8月20日に実施された。分科会の委員の方は、桧森さん、三ツ山さん、井上さんのお三方である。今年度の主な検討課題は、管理運営組織のあり方、創造スタッフ室の使い方、管理運営ルールの詳細の検討、諸室の使い方(主に備品等もこの検討の中に入れていきたい)、施設の減免、優先利用、使用料金、事業のラインナップ(事業費がど

れくらい必要か) といったことである。

「運営組織のあり方について」というところでは、平成 23 年 3 月に策定した基本構想における「管理運営の考え方」の振り返りから始めた。博物館や美術館は機関として法に定められている施設でもあり、研究調査や教育普及という考え方で出てきている。芸術文化創造センターも、社会と文化の関わり、社会開発をするための機関であり、その運営組織のあり方や、それを支える文化予算についても議論を深めておきたいということを確認した。加えて、市民との協働、まちづくり事業、育成系事業などの、事業の実施のための効率的な体制、専門職員の配置、それを支える財政的な裏付け等も必要であろう、と。また、運営組織については、県内の他都市では昭和 50 年代後半から文化財団、あるいは文化振興財団というものが、例えば平塚では平成 8 年、藤沢や鎌倉は平成 4 年頃に設立し、現在はホールの運営や事業を行っている。しかし小田原市ではそういった財団が設立されず、そのためだけではないかもしれないが、魅力ある催物の継続的な実施ができなかったと考えられる。これからは、運営組織が主体となって継続的に事業を行うことが望まれている。

「開館前からの事業の実施」ということについては、基本構想において、ホールがオープンする前から事業を実施することで、ノウハウ、運営組織のイメージ、将来のお客様の開拓、そういったものもリサーチできるので、実施するべきであろうと明記されている。事例としては、座・高円寺の組織のできあがり方というのが、開館の 3 年前から NPO が設立され、プレ事業をやりながら、ノウハウを蓄積してきたといったことである。これは館長の桑谷氏からのご紹介であった。我々も基本構想を受けて平成 23 年度から文化政策課でアウトリーチ、ワークショップ、鑑賞事業等を実施しているところである。

「管理運営実施計画における運営組織の考え方」も振り返ってみたい。キーワードは大きく 3 つある。効率性のある柔軟性の高い運営が必要ではないかということ、文化政策を長期的な視点で実現できる組織が必要ではないかということ、専門性の高い人材を確保しておく必要があるということ、それらの人材を継続的に配置しておくことが必要であろう、ということが書かれている。公立文化施設の運営方法については、皆さんもお聞きかと思うが、指定管理者制度というものが地方自治法の改正によりスタートし、約 10 年がたった。いわゆる「直営方式」と言われる設置者である地方自治体による運営、そして、指定管理者という制度を利用して「公益的団体が運営する方式」と、「民間企業が運営する方式」、大きく分けるとこの 3 つになるだろうと思う。平成 24 年度調査で、全国の公立文化施設 1,120 館の調査を行った結果では、ざっくりとした数字であるが、直営と公益的団体（財団等）で約 80 パーセントの施設が運営をされている、ということである。それを深く入っていくと劇場法のお話になり、やや難しい話になる部分もあるので、割愛させていただくが、劇場法という法律の取組に関する指針というものが平成 25 年に出されているが、その中で、「指定管理料を安くするだけが指定管理者選定の理由でなく、事業の質の確保や運営の向上に留意して欲しい」「適切な指定管理期間を定

めて欲しい」といった事が書かれている。法律運用の指針に、このように書かれているということは、お考えいただければわかると思う。私も、昨日、一昨日、話をしたが、指定管理をやっている方達からの意見として、ある会社では職員は1名、あとは十数名の寄せ集められた契約社員、それで果たしてチームが出来るのか、ミッションは達成できるのか、といった声を聞いた。常に契約社員を募集している、ということである。民間のノウハウを活用するために作られた制度ではあるが、地方自治体側の問題だとは思いますが、競争入札制度とほぼ同じように運用になっているという実態が、全国で出てきている。だからこそ、劇場法の取組に関する指針の中で、国があえて、こう言った文言を出してきているのだろうと解釈している。

あと、管理運営市民ワーキングの報告をさせていただく。8月16日に、創造スタッフ室についてのワーキングを行った。空間創造研究所に作成頂いた討議資料を基に、創造スタッフ室は、どういう市民が使うのか、どういう活動を行うのか、といったことを2班に分けて意見を出し合い、最終的には報告をしていただいた。1班からは「運営委員会を設置して部屋の管理を行うのはどうか」「個人の利用も検討した方が良いのではないのか」「備品としてはWi-Fiやコーヒーマーカーも必要ではないか」といったご意見があった。2班からは「既存団体の溜まり場にならない方が良いのではないのか」「市民活動サポートセンターとの棲み分けが必要になるだろう」「情報発信の拠点となる必要がある」といった意見が出されている。最後に、当日アドバイザーとして来て頂いた魚沼市の小出郷文化会館の館長でいらっしゃった桜井さんから、運営ルールをつくることに関して、運営委員会をつくるのもよいアイデアではないか、創造スタッフ室のミッションを更に検討した方がよい、職員を常駐させていつでも相談に乗って貰えると良いという話があったが、常駐は無理でもコーディネーターや相談役を置くのは有効である、といった講評をいただいた。

最後になるが、8月20日の管理運営専門分科会では、主なご意見として「小田原ならではの運営組織をつくろう」「公益性と社会包摂を考えた組織を検討する必要がある」「既存の運営にとらわれない小田原らしい運営方式を考えることが必要」「効率性やコスト感覚を持った人材が必要」といったものがあった。

今回は9月24日に専門分科会を行う。その際には運営組織について深い意見交換をする予定になっている。

<休憩（10分）>

(3) 意見交換

内容	発言者
【舞台】	
最前列の床面から見て舞台の高さはいくらですか ステージ寸法を教えてください	(※3)
<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台の高さは、一番前の客席+800mm で計画している。 ● アクティングエリアは8間×8間である。 	吉崎氏
【音響】	
「音を良くする」という言い方がされますが、具体的に何をどうやって「音を良くする」のですか	(※3)
大ホールの壁厚を減らすということだが、音について影響は？音質、遮音性等に影響は	(※13)
<ul style="list-style-type: none"> ● 音についての計画は難しい。ひとつはホールがきちんと遮音されていて、静けさがある、ということである。電気音響はスピーカ等の位置や操作性に配慮して的確に演出ができるようにしておく。もう一つは生音である。今、検討している1.8~2秒くらいの残響音を的確に出来て、各席に生音がよく届くということを含めて、全体的に音を良くしようとしている。 	吉崎氏
<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台については市来委員たちと検討を進めているが、それ以外に、僕らの、シアター・ワークショップというコンサルタントと、永田音響設計というコンサルタントが関わっている。 ● 現在は、音が可視化できる。しかしそうしたことが出来るところは日本でも数少ない。僕らと永田音響設計で、ライノセラスというコンピュータのソフトを使って作ったデータで、検討をしている。 ● 木を使ってほしいという声が多いので、小ホールは、木質系でできないか、ということにトライしている。全体に狭いので、残響音の調整をし、最後は僕らの形と材質を全部入れながらシミュレーションをしていく。コストによるが、できれば木質系にしたいと思う。 ● 例えば音響反射板の角度を何度変えるとどこに音がいくかを計算している。 ● 今年の4月から天井脱落に関する規定が出来たことがあり、トラスの2次部材をきちんとしなくてはいけない。普通は大きなトラスをかけるが、今回は高さが制限されているので、構造のトラスが2次部材として、その中をキャットウォークとして歩けるかなど、一つずつ模型で検証している。 ● 全体がシックな色合いになるかどうかなどは、ある程度まかせていただきたい。僕らはWAF (World Architecture Festival 2014) でも最終に残っている。「BBC」「WAF」「Architecture」というキーワードで検索をかけてもらえば、僕らは今ポールポジションにいることがわかってもらえます。 ● 音に対する検討を勘でやるという時代は去った。シューボックスが、一番音がよいわけでもない。シューボックスは手前の方の音は良くない等、色々課題もある。それを補正するために、ロサンゼルスにあるフランク・ゲーリーのディズニーシアターくらいから研究している。僕らは黒部市国際文化センターコラーレで1995年からやってきて、約20年間、僕らの音の可視化は進んでいる。音としては問題ない。 ● 音の質をよくするというのは、ほんの少し角度を変えただけでも違うので、今、客席がおおよそ減らないだろうというところで、1席ずつ、見えにくい箇所をつぶし、そうして客席の置かれた角度と天井の角度を調整するということである。今度スライド等でお見せしてもよい。1年ちょっと検討している。 ● 音響反射板は、大ホールは吊り上げる機構、小ホールはスライドするような 	新居氏

<ul style="list-style-type: none"> ● もので、コスト等も考えて計画している。 ● 細かく、どうして、その角度にしているか等は、僕に聞かれても「音響設計家が決めている」としか言えないが、きちんとしたものになると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 先ほどのご説明の中で、色々な制約事項があるので、壁の厚さを薄くして、客席数も減る、というお話があったので、その壁の厚さを薄くするところで、例えば遮音性で何 db 変わるのか、と気になった。そこで妥協するくらいなら、座席数を減らしてでも、遮音性を確保した方がよいのではないか。 	市民 A
<ul style="list-style-type: none"> ● それは関係ない。これまで 2 人の構造設計家に検討をお願いしてきた。当初は 500mm で全ての壁をうつ予定だったが、今はお金がないから、遮音性を確保した上で、凹ませて、少しでもコンクリートを削ることを検討している。しかしそれでも僕らの建物は普通の建物よりも厚い。ダムみたいな厚さでつくるか、それを柱梁的なものの中間くらいでつくるかの違いだ。皆さんの言っているものを、性能を落とさないうつくるには、相当に建築を削るしかない。削ると言ってもいい加減にするということでもない。例えば 350 とか 400 残してコンクリートを削れば、その分安くなる。それくらいやらないとこの建物は予算的に難しい。 ● かといって音が悪くなることはない。壁に厚みと質量がなければ音が悪くなってしまふ。僕らがやるホールとしてはこの 20 年で 12 番目であり、一番東京に近いホールでもある。一番近いところがダメということになれば、僕らはホールが次は出来ないということになってしまう。僕らの全精力をあげて取り組んでいる。先月最後の毎日新聞の夕刊に、僕らのつくった 4 つの劇場を中心とした総合建築がよいということ、全国版に東北大学の五十嵐先生が書いてくださった。みなさんにそれを読んで頂けると幸いです。音にしてもかなりよいと思う。 ● 今、市来委員と話をしているのは、少し過剰ではないか、ということである。ライトブリッジ等も、僕らが無くすと戻ってくる。新しい機構を考えて、機能的に変えずにコストをどうするかをずっと考えている。空調設備も席の下から静かに微風が出てくる形にしている、居住域空調という自分のまわりだけ暖かかったり涼しかったりするもので、上から吹かないので音もしない。そうしたことも計算している。これで人に負けることはないと思う。僕らがこれまでにつくってきた中では、これが最強になる。1 年半、ずっと音の検討だけをしている人達がいる。よい音になると思う。 ● 僕達には色々な考え方があふ。厚みの壁で持たせるか、柱梁で持たせるか、中間の案でいくかの違いだ。今は、条件が厳しいところでもあり、実際には 50 分の 1 くらいの模型をつくりながらシミュレーションしている。 	新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● 音について補足する。電気音響に関しては、今検討している。アコースティックな壁面形状も含めながら、客席に対して機器を、「こういうものだったら OK ではないか」というのを、予算とも兼ね合いしながら、現段階ではベストなものを入れられるというつもりで進めている。電気音響に関しては、ご心配なさらなくて、と言えふ。 	市来委員
<ul style="list-style-type: none"> ● 音響のことをさんざん聞いてきた。反射係数とかはよくわかるが、例えば周波数スペックなどの設定はどうなっているのか。ホールによって周波数というのがあり、その違いは演奏家にとって大きい。その違いは、反射音よりも、その設定をどう考えているかによるのではないか。 	市民 B
<ul style="list-style-type: none"> ● おっしゃるとおり、残響時間の周波数特性は大切なポイントである。それは音線処理と同時に見ながら検討していただいている。 	市来委員
<ul style="list-style-type: none"> ● その際にどういう分野の音楽に特化して設計するかが、ホールの命になってくるのではないのか。 	市民 B
<ul style="list-style-type: none"> ● このホールは多目的ということなので、フルオーケストラが入ることも、ピ 	市来委員

	<p>アノひとつということもある。全部ベストがよい、ということにはならないのは仕方がない。そのバランスのとり方も含めて、お願いしているつもりである。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 僕らは専門家でないのでわからないが、例えば（NHK の）SONGS 等の収録にも僕らが設計した大船渡のホールがよく使われている。僕らのコンサルタントは、その大船渡の機能を更に強化していると言っている。相当、ちゃんとしたものになると思う。 ● 僕らのホールは、小田和正などが好きだ。自分で勝手に来てやってくれている。呼んでいるわけではない。野村万作さんは、文章をお見せしてもよいが、中尊寺の舞台と僕らのものが一番よいと書いている。問題はないと思う。確実に何か特定のものに合わせるといよりも、多目的でそれがバランスするようにやる。五木ひろしがやっても芸大の楽団がやっても文句は出ていない。 ● 今回の専門委員には音楽系の方が居ないので、僕は市に言って僕の知り合いで芸大の副学長の有名な先生がいるので入れてもらおうと思ったが、とりあげられなかった。色々な人に相談してやっているのでとても良いものになる。 ● 作曲家で言えば、三枝成彰は僕と仲がよいが、僕らのホールでいくつかやって、一度も文句を言ったことはない。ただ、三枝さんに「日本の音響コンサルは低音に弱い。ドイツ系はもっと低音がよい。」と言われ、それから 20 年くらい補正している。最近では文句を言わないから、きっと大丈夫だと思う。細かい周波数で何がよいかというだけでもものは出来ない。全てバランスしてよいものにするしかできない。僕らもそういう点では素人になってしまうので、周波数のコントロール等は永田音響設計さん等に任せるしかない。僕らはベストをつくして、一番よい音が出るようにする。 	新居氏	
<ul style="list-style-type: none"> ● ホールの内装について、小ホールは木質系にしたいというお話があった。木質系というのは、音がやわらかいとか、良い音がでるといことで、使いたいのか、あくまで質感、インテリアとして使いたいということなのか。木を使うのなら無垢材でなければ意味がないと思うが、高くはないのか。 	市民 C	
<ul style="list-style-type: none"> ● 寄木細工も突板だ。本物の無垢材を使えと言われると、寄贈していただかない限りは使えない。ただ、僕は、皆からやりたいと言われたことは、なるべく検討する。寄木細工の人に 2 時間くらいお話を聞きに行ったりもした。1 万 5,000 円くらいでゴミ箱も買ってきて、どうしたらこういったパターンが出来るかなども考えている。 ● 全体には躯体があり、その前で音の調整をする。電気的な音響可変はできないが、カーテンを下ろす等で変化させることもある。 ● 木を使うというのは、大ホールでは規模が大きいので練り付けのものですら難しい。 ● インテリアとしてだけではなく音のためという意味もある。1 か所だけ、美浜町（生涯学習センター）というところで、木質系のものをやった。その時には、安い板材を塗装して美しく仕上げた。自分で見た時にも良い印象はあったので、小田原でもそういうものが出せばトライしようと思っている。 ● しかし、もはやこれまで、という場合、全部を積み上げてみて膨大になってしまった場合には、出来ない。最近来られないが、地場のものを使ってほしい、という方がいた。順番に解決できるところからやって、検討している。 	新居氏	
【オーケストラピット】		
オーケストラピットはつくることになったか	(※4)	
<ul style="list-style-type: none"> ● つくることは最初から決まっている。段階的にやっている。市来委員からは、全体を 1 枚にしたほうがよいなどと言われている。僕らも、技術的にどちらがよいかと言われれば、使いやすい方がよいと答える。最終的に、これからアドバイザーと検討して、可能であれば全面を迫りにして、いこうとしている。オーケストラピットはある。あとは段階的な問題だ。全面にするか、ど 	新居氏	

<p>こまでにするかについては、もう少し待ってもらわないといけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最近までは、コストが読めていたが、エレベータの件を始め、ガンガン要望が来て、読めなくなってしまった。 ● 今もまだ検討の最中である。明後日も事務所で打ち合わせをする。僕が想定していたものより更に上になっている。コスト的におさまるかどうかだ。機能的にはどんどん良くなっている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 僕らとしては、手作業も含めてオーケストラピットをつくることは大変なので、何とか全面に出来ないか、と。そのかわり、オケピットが下がるストロークを短くしたり、周囲の構造を変えることでシンプルな構造にできないだろうか等、それらを含めて差し引きにできないかという話をしている。オケピットだけ、舞台機構だけでの話ではなく、全体を含めておさまるかどうかという話がたくさん出てきている。 ● 今、色々なこととお話していて、取り上げていただいて、一度みてもらう。その後、優先度をつけていく。オケピットをつくることの優先度は高い。 	市来委員
<ul style="list-style-type: none"> ● 言われればよりよいものにしたいと思う。梁を縮める等の検討をしている。段差のあるところを平らにし、やれる範囲でやる。ベストを目指して検討をしている。 	新居氏
【樹木の保存等】	
<p>駐車場周辺の植栽の具体的計画は 植栽計画についてはどのような専門家に依頼するのか</p>	(※6)
<p>樹については樹守りの世界がある。二世の樹を合わせてつくっていくことも必要である。</p>	(※1)
<p>京都や金沢の歴史ある日本を代表する都市は樹を大切に文化がある。小田原も城下町として歴史文化のある都市であることに誇りのある都市として樹の文化、樹を大切にすることを知ってほしい。</p>	(※7)
<ul style="list-style-type: none"> ● 造園については他の人にやらせたことはなく、自分たちでやっている。岩城造園や西武造園などの、今までに使ったことのある造園会社は事務所に呼んでヒアリングをして検討をしている。その他に、どなたとは言えないが、東京や京都で造園家として有名な方に個人的に話を聞いたりしている。景観委員からも「こういった木はどうか」という話もある。 ● 道に葉が落ちず、なるべく常緑で、花が咲けばよい等の条件を出して、色々なもの考えているので、これからの検討になる。 ● 松と桜については、役所の方でも寿命を見ろと思う。問題がある場合は、その場所を残しておけば、次の木を植えることができるだろう。今のところ、基壇の部分は工事中にさわらないように考えている。その部分だけは僕のデザインではなく、もともとの石垣のようなものが残るという形になる。その方が安全だろう。以前、梅ヶ丘中学の案件で、柳の木を1本50cm動かすだけで800万円くらいかかった。その時には樹木医と一緒にやった。 ● 倒れるかどうかは診断による。それを心配されている市民の方もいるので、それは役所の方で調査をしてくれるはずである。 ● 僕は、個人的には残した方がよい、と最近は確実に言える。写真に入れてみたときに、その方はおさまりがよい。その方向で進む。 ● 駐車場の周りの植栽は全体にマンション屋の仕事だ。650mm くらいまでだと2m50cm くらいまで、800mm にすると4m くらいのが植えられる。あまり大きなものを植えることはないと思うので、原則的には650mm の植栽をずっとまわして、近隣の人のまわりに植えようと思っている。それで緑を植えて、良い感じの雰囲気にはできると思っている。一部の塀をやめてもう一列木を植えようかとも思っている。 ● 野村不動産や三菱地所など、マンション等で高級なものをやる際の基準がある。公共の施設をやるときに、その基準で検討すれば、クレームが一番少な 	新居氏

<p>い。また葉っぱの掃除は面倒なので、なるべく掃除が少ない樹種にし、あとは小田原にある木等に配慮して、2ヶ月後くらいには緑地の計画の先生と、検討をする。景観委員からは、色等問題ないということだったので、樹種については次の検討になる。宇都宮大学の先生、東大の先生、都市計画家の3人が、景観上の問題について、今、チェックをされている。それをクリアすると、緑地の先生たちが来る。緑地のパーセンテージや内容をチェックされる。それをクリアしたら、皆さんにきちんとご説明することになると思う。</p>	
<p>入口庇が半減して、広場の独立性が失われてしまった。樹木を残して庇を通す方法はないか。</p>	<p>(※2)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● それは無理だ。模型等でシミュレーションして問題もないと考えている。庇の長さは40mくらいあり、帝国ホテルと同等だ。問題はないと思う。 ● 自分でも、松がないものと比較してみた。今の状況で、普通に散歩の時に入るくらい問題ないと思う。 ● 違いがあるとすれば、雨の日に来て、敷地についたとたん、傘を閉じられるか、あと20歩くらい歩かなくては行けないか、というところだ。 ● 何個も模型をつくって検討して、庇を切っても、建物として問題はないと思った。 	<p>新居氏</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 今まであったものがなくなって、尻切れトンボに見えた。切り方が難しいのではないか。 	<p>市民C</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● しかし、先ほども言ったが、皆さんの舞台機構や音響にお金をかけるには、どこかを無くした方が、減額にもなる。奇跡に近い内容のものをみんなが要求しているので、無駄だと思ったもの、理論的でないとしたものはずして設計することが僕らの使命だと思う。確かに最初はある方がよいと思ったからつけたが、改めて色々なホテルの庇も測って検討したが、今の状態でも日本の一流のホテルと同じだけのものがあるし、あればあったでもよいが、今のものでも狭いということはない。 ● 建築家にも色々な。絶対にデザインを変えない人もいるが、僕はずっと変え続け、終わった時には違うものになる。しかし、それでも70を超える賞も受賞しているので、これがデザイン的に悪いということはないと思う。 ● 木を助けて、庇を半分にするのは理解していただきたい。 ● 市来委員たちが僕らに言ってきているのは結構すごいことだ。日本最強の劇場に近付いている。その時に、どこかをやめなくてはできない。だから扉もとった。高さ4mの扉は1,000万円か2,000万円かかる。木を植えても200万円くらいだ。その浮いたコストを舞台機構にかける。そういう計算をしながら検討しなければ不可能に近い。なるべくよいものを作って「良いものが出来た」と言ってもらいたい。 ● この建物はコストを突破するのが一番難しい。無駄なものは全てとる。窓ガラスはほとんどない。窓ガラスは普通の家についているようなものでも1個20万円だ。しかし1,000個では億になる。それを削らなければお金は捻出できない。それを皆さんにも理解していただきたい。「建築家が趣味でつけた」と言われたいようにしたい。残った600個の窓は、部屋に必要な窓である。それくらいの限界まで詰めなければ、この建物は皆さんの希望している良い音、良い機構にはならない。窓ガラスはすでにだいぶ減っていると思うが、次にお見せする時にはもっと減っていると思う。しかし、それでもデザインもそんなに悪くないと思う。何十個の模型を作って検討している。窓を10個やめれば200万円だから、バトン1本と交換できる、など、そういう計算をしなくては出来ない建物である。 	<p>新居氏</p>
<p>【ギャラリー、展示について】</p>	
<p>西相展と大ホールのイベントがバッティングした場合、大ホールを使うのに大変不</p>	<p>(※8)</p>

便になるのでは。		
<ul style="list-style-type: none"> ● 運営の時間帯によると思う。 ● しかし、ギャラリーと大スタジオの間は6m、普通の道程度はある。 		新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● 出口が1か所しかないのではないかと。 		市民D
<ul style="list-style-type: none"> ● 以前の図面から出口が増えている。劇場のような建物はバラバラに人が来て一度に帰る。避難上の計算というものがあり、各ゾーンの人をどこから逃がすかを全て計算している。実際には、入口まで逃げる間に途中で火事になると危ない。建物としては、ゾーンごとにどこに逃げるかを決めて、扉や階段を計画している。 ● 運用である程度の工夫ができる。確かに大ホールの開場時間前に人が並んでいる時に、ギャラリーでパーティなどをやるとどうか、という問題はあがあるが、ギャラリーにも入口は2つある。三ツ山委員は片方をつぶした方がよいとおっしゃっていたが、僕は両方ある方が運営上よいと思っているので、そこは話してみようと思う。 ● 以前はクロークをこの位置に設けていたが、大ホールのエレベータの移動に伴って、8mくらい逆に広がった。時間帯で分離できると思う。1か所に集中することはないと思う。 		新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● ではホールから外へ直線的に出られるのか。 		市民D
<ul style="list-style-type: none"> ● 出られる。法規を一つ一つご説明していくと1日以上時間がかかるが、火災時の区画等も考えて、おおよそ解決している。 		新居氏
【ギャラリー・展示／運営について】		
ギャラリー使用において、有料催事の可能性として、オープンロビーやスタジオをどのように合わせて使えるか。		(※8)
<ul style="list-style-type: none"> ● ギャラリーの有料催事は微妙だと考える。有料ということは、どこかのエージェン트가関係している催事が多い。使用料金によるが、例えばデパートの1フロアを借りるよりもはるかに安い場合、専有はされないとしても、市民利用が抑制されてしまう可能性はある。 ● 逗子市で初めて有料というギャラリー料金の設定をしたことがある。無料催事以外はダメという施設や、ギャラリーのエリアでは物販をできないという施設が多いと思う。それは市民利用を優先したいという施設側の考え方だと思う。 ● オープンロビーでの有料の催事については、大勢の方が出入りが可能な空間に、有料でやるような作品を置く場合にどう警備するかという問題がある。相当の人数をやりつけなければ常時警備はできないだろうと思う。全館借り切ってもらう形であれば問題ないが、ギャラリーのためであればあまり現実的ではないだろう。 ● 先ほどのギャラリーと大スタジオを両方一緒に使った場合に、お客様がバッティングするのではないかと、というご質問に対しては、施設の利用の打ち合わせ、催物全体の打ち合わせで対応できると思う。並ぶ時間は開演時間で想定できる。ギャラリーに100人単位の方がいて、一度に大スタジオに移動することは、通常の展示の場合では考え辛い。おそらく、10人、20人という単位がマックスだと思う。また、大勢の方が大ホールに並ぶ場合は、例えばロビー開場という方法もある。運用上で対応できる。設計が固まってきたということで、私たちも、お客様の動線と、お客様へのサービス、火災、地震の際のシミュレーション等を始めている。 		芸術文化担当課長
<ul style="list-style-type: none"> ● 先ほどの新居さんの説明では、大スタジオ、オープンロビー、ギャラリーを一体的に使うことで西相美術展などに対応できるようなお話があった。一方で、その時に、大勢の方が警備しなくては出来ない、という話がある。作品が持ち去られたりすると困る、という話だった。そうすると、西相美術展の 		市民E

<p>方が管理するのは大変な労力になる。ギャラリーをホール側の方で管理できるシステムが出来ないと困る。それがどうなっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有料催事については、確か井上委員ではないかと思うが、専門委員のどなたかが、自分のところのもののために、有料にしてお金をとって運営していくことも考えなくてはいけない、という話があった。運営の中で、有料化というのは考えなくてはいけないと思う。今の間瀬担当課長の言葉の中で気になった。考えて頂きたいことだと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 今後の検討課題であるのは確かである。しかし、オープンロビーの警備を会館側がやるということであれば、これは管理の面で警備員を常駐させなくてはならず、ランニングコストがかかってくる。そのバランスの問題だと思う。 	芸術文化 担当課長
<ul style="list-style-type: none"> ● そうした場合はオープンロビーをギャラリーの方が借りるという形になるのだろうか。何かトラブルがあった時の責任の所在はどうなるのだろうか。 	市民F
<ul style="list-style-type: none"> ● オープンロビーを誰が管理するのかという問題だと思う。オープンロビーは誰でもが出入りできる空間ということであり、有料の展示は難しいが市民の作品展示であれば可能だろうと考える。先ほどは有料展示の場合のオープンロビー利用ということでお話させていただいたが、ギャラリーを有料利用できるのか、オープンロビーをどのような形で一般の方占有できるのか、そのあたりも管理運営の方の委員会で今後も検討していきたい。 	芸術文化 担当課長
<ul style="list-style-type: none"> ● 大ホールや小ホールは貸館運営が出来るという原則で考えれば、ギャラリーに関してもそういう運用ができるのではないか。セキュリティに関しては、そういうことを配備していないということを主催者に伝えた上で、彼らがそれでもやりたい、ということであれば、やることではないか。 	市民A
【トイレ】	
トイレの入口、出口を別にして時間内（休憩）に使用が終わるように出来ないか。	(※10)
<ul style="list-style-type: none"> ● 渋谷のシアターオーブのトイレを使った人の話を聞いた。入口があって、案内をする女性が2人いるそうだ。中で空いているブースを確認して「次の方どうぞ」と案内している。1,600人のホールで20分だそうだ。また、気持ちよくトイレが使えたという感想を持ったそうだ。そういう使い方をし、また、出口の方に化粧や手洗いを置いておくという構造にすると、スムーズだと聞いた。並んでいる人はどこが開いたかわからないが、案内をすることで、時間を短縮することがシステムとしてあるそうだ。 	市民D
<ul style="list-style-type: none"> ● 今の計画は、入口に並ぶ人が見えなくなっており、多少の変更はあるが、全てのトイレはクックッと曲がって入れる。中はかなり広がっている。 	新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● 中が広くなくても、スムーズに行く方がよい。出入口が一つだと、入る人と出る人がクロスしてしまう。そういうことがないと、流れが速くなる。KAATもそうなっている。 	市民D
<ul style="list-style-type: none"> ● このホールはトイレの数が多。劇団四季のトイレやシルク・ドゥ・ソレイユのトイレなどのように出入口を分けていたり、あるいは空いているかどうか分かる工夫がされているなど、これから設計をつめていくのだと思う。時代としてはすでにそういう時代であり、とにかくわかりやすいトイレ、きちんと出入りが出来るトイレをつくってほしいというのが設計条件ではないかと思う。 	勝又委員
【運営について】	
カフェの運営はどうなりましたか。 小田原らしい運営って何でしょう。	(※8)
<ul style="list-style-type: none"> ● カフェについては、管理運営の後半で検討していきたいと考えており、まだ検討中である。 	芸術文化 担当課長

<ul style="list-style-type: none"> ● 小田原らしい運営は、実はシンプルな答えになるが、小田原の市民が参加する運営だと考えている。おとといの管理運営専門分科会でも申し上げたが、行政と市民と NPO 等の様々な芸術文化団体が協働して、このホールをつくっていく。 ● 今、ホールの運営は揺れている時期にある。指定管理者制度が出来、NPO 法や、寄付税制のことがあり、行政法人制度改革もあるなかで、既存のホールの運営のあり方は揺れている。 ● 小田原は幸か不幸か出遅れたので周回遅れのトップランナーではないが、これから先取りした運営システムを全国に先駆けてつくっていくのが小田原らしさになると思う。それには市民の皆さんの責任ある参加が不可欠である。 	<p>桧森委員</p>
<p>【車寄せについて】</p>	
<p>車寄せについて、長さが減った分、中を広げたらどうですか。 市道 0003 から捻出する（お堀端通りは交通量が少ないので）</p>	<p>(※5)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 市道 0003 から土地を捻出することはできない。0003 は都市計画道路として幅員が決定され、整備がなされている。道路を云々することなく、車寄せは施設の敷地の中で、乗り降りをすることで解決をはかっていくしかない。 ● その中で広場等との問題もあるが、既存の樹木なども尊重しながらの設計を進めていただいております、今の形でやっていただくのが望ましいと考える。 	<p>文化部長</p>
<p>【内装について】</p>	
<p>床、壁面、舞台の素材は何か。</p>	<p>(※6)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台はヒノキの集成材、床はチークなどの減りの少ない長持ちする堅木を考えている。側壁は検討中である。考えている最中である。 ● なるべくシンプルなものが多いと思うので、大ホールは天井が迫ってきていることもあり、白やグレーなど、それほど明るくなく、しかし明るいもの、そして 21 世紀らしいものと考えている。小ホールは、木質系なので、キツネ色とか茶とかにしようかと考えている。ただ、簡単には決められない。何十個も模型をつくってその中で検討していく。全体に小田原らしいことも考える。僕らはホールを同じ内装にしたことは 1 つもない。今は、大ホールはクール、小ホールは木がよいかと考えているが、まだそこまでは決めていない。 ● 舞台はヒノキと決まっている。あとは椅子の色だ。 ● ギャラリーやスタジオは摩耗が少なく長持ちする素材を選ぼうと考えている。 	<p>新居氏</p>
<p>【運営組織、事業費について】</p>	
<p>市民を含めた運営組織は早い時期から正式なものとして立ち上げる必要がある。このメンバーについてはボランティアでは無く、過度にならない範囲で謝金等も準備し、その代わりにメンバーとしての義務を設ける様にする。</p>	<p>(※11)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的にはこれから検討をつめていかななくてはいけない。市民参加は、基本構想にもあるように、事業への参加、運営への参加、評価への参加ということがある。まずはチケットを買って、事業を見に来る、という市民参加も大切だと思っている。運営への参加も徐々に始まっている。これも一つずつ積み上げていく。研修も含めて、これから積み上げていきたい。詳細についてはもうしばらくお時間をいただきたい。 	<p>芸術文化担当課長</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 「もうしばらく」と間瀬担当課長はおっしゃたが、前回の管理運営専門部会から徐々に組織の形、市民参加のあり方など、具体的に議論をして、本年度中に形にしようと思っている。その議論のプロセスも公開されている。是非、聞いていただき、実感を持っていただけるとありがたい。 	<p>桧森委員</p>
<p>近隣の住民の文化・芸術に現在かけている金額の調査があれば教えてください。ホール企画の事業の収入のうち市民利用以外の割合はどのくらいを見込んでいますか。</p>	<p>(※12)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣の文化予算ということについてだと思うが、どこまで含めるかが難しい。文化財なども含めると、小田原市もかなりお金をかけていると思う。 ● ホールに係る自主事業費という部分で言えば、基本構想を策定した平成23年度から、「文化創造活動担い手育成事業」を開始した。平成23年時点では145万円だったが、今年度は約800万円に規模が増えている。 ● ホールの事業費の適切な基準は政策的な話になる。視察等で他市の事例を見ると、全国トップクラスの施設では、年間1億円以上の自主事業費が投下されている。地域で頑張っているホールでも5,000～6,000万円、一般的なホールでも2,000万円くらいの事業費が一般的であり、目安だと考える。 ● これから行う事業のおおよそのボリュームは、管理運営実施計画で出しているが、やり方と本数については、今積み上げを行っているところであり、これから、おおむねどれくらいの自主事業費が必要になるか検討していきたい。 ● ホール企画の事業のうち、市民以外の利用はどれくらいかについては、今は市民以外の利用を制限していないので、特に割合はわからない。 	芸術文化 創造係長
<ul style="list-style-type: none"> ● 質問の意図としては、市側の予算ではなく、市民の方が例えば毎月5,000円コンサートに払っていたり、といったことを知りたかった。ここを利用される方の収入が急に増えるわけではないので、毎月1,000円、映画に行っていたのを、3回ためて、3,000円でこのホールに来る、というものではないか。そのおさいふのパイをどこからとってこようとされているのかな、と。運営で、すでに議論されたかもしれないが、近隣の方たちが使うことが前提であれば、そういう調査があると、こういう観劇等にどのくらいお金をつかうというのが、わかるとよいと思った。都内と全然違うのではないかと思う。観劇とかにお金を使う金額がわかれば、事業の企画のチケットのラインや採算性がわかるのではないか。 	市民G
<ul style="list-style-type: none"> ● そうした調査は小田原市ではやったことがない。 ● 現在の市民会館を使っている事業では、文化団体の市民の発表が多く、無料か1,000円程度のもものが中心である。たまに歌謡曲などで5,000円、8,000円などのケースがあるが、文化的な催しものに対して定期的にお金を払って楽しむという習慣はできていない印象がある。 	芸術文化 創造係長
<ul style="list-style-type: none"> ● ホールで公演などの自主事業をやった場合、収入がいくらあるかということについては、公立文化施設協会の調査の全国平均では50%である。例えばオーケストラに800万円ギャラを払うとして、入場料収入で回収できるのは400万円程度であり、その差額はどうしても赤字になる。その赤字は、小田原市の文化に対する投資ということになる。ただし、これだけをやっていくのはしんどいので、実際に企画者は何をするかと言えば、黒字が出る演目と、絶対に良いが赤字がかなり出るだろうというものを混ぜて計画する。年間で60%は超えよう、というのが公立文化施設協会の目標になっている。 	桧森委員
【舞台設備について】	
ライトブリッジの説明をしてください。	(※9)
<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台照明でサスペンションライトというものがある。そのスポットに対する作業として「あたり」というものがある。1つ1つのスポットを、どういう焦点で、どういう大きさにするか調整し、フィルムを入れて色を変えたりなどといった作業をする。ライトブリッジがない場合は、手に届く高さまでバトンを下ろして、器具を吊り込んで、大体の角度等を決めて、バトンを上げる。上げた後で微調整をする。今の市民会館であれば、竿でちょんちょんと押しながらやる。今の市民会館の高さであれば、せいぜい6m、7mであるが、それでも7m先のスポットライトの角度を、長いアルミの棒を使って5mm動かすにはテクニックが必要だ。いちいちバトンを下ろして微調整すればよいかというと、例えば下に何かのセット・大道具があるとバトンがおろせない。また、バトンを下ろすとそれは本来の高さではなくなってしまう。本来は実際にバ 	市来委員

<p>トンを当てる高さのところで微調整をしたい。そのために、ライトブリッジというものが考えられた。人が高い位置に行って調整ができる仕組みがライトブリッジである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ライトブリッジがあることで、セットをばらしてバトンを下ろして調整してまた上げて、といったことをする必要がなくなり、技術者が上に行って実際にあてる状態を下で確認しているプランナー等の指示にあわせて調整することができる。つまり、ものすごい時間の短縮が可能となる。 ● 一方でブリッジは幅（奥行き）をとる。ブリッジは何本もあればよいというものではない。非常に奥行きがあるならよいが、小田原のように奥行き 8 間では、ブリッジを何本も設けると、他のバトンが少なくなり、支障が出る。 ● そこで、今はせめて、最もよく使われる一番前のところをブリッジにしようと検討している。例えばバンド演奏等でも、前から 4m 程度のところのスポットライトが使われる。そこは第 1 ブリッジにしましょう、と。音楽でも必ず使われるところである。照明の修正は必ずある。従って、そこはライトブリッジにしようと、意見を一致させている。 ● ただ、僕らアドバイザーは、そのもう一つ奥の照明も、演劇系では必ず装置が立て込まれるエリアであり、使われることも多いので、ブリッジを 2 本にできないか、という話をしている。しかし、もちろんコストは厳しいので、他の方法も含めて考えようとしている。 ● またブリッジに乗り込むためにギャラリーが必要だが、それは、制御盤を置くためのギャラリーを兼用することで、何か要素を増やすことなくつくれる、ということを確認している。 ● ライトブリッジがないのでは、そこでやる作品が変わってくる。貸館で乗り込みで来る作品でも、市民の皆さんがお使いになる場合でも、非常に有用であり、是非に、ということをお願いをしている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● お金があれば、なんでもできる。僕もだんだん説得されてきた。ライトブリッジは 5,000 万円くらいする。市来委員は、他を簡易化し、総コストを変えずに出来ると言っている。新しい方式を試してもよいかもしれない。模型をつくったりして研究をしている。コストが決まっている。最初はライトブリッジに反対した理由は、そういうものが見込まれていない予算で、どうやって実現するか、ということだけである。 ● 僕らにとって難しいのは、舞台機構だけコストを上げるわけにはいかないということだ。展示も、空調も大切である。全てに対して中立にならなくてはいけない。演劇も音楽も展示もバランスを決めた範囲内で検討する必要がある。全部のバランスを決めた範囲内で最高に近づけていく。 ● 1 年間市来委員とお話して、気があうと思っている。大小ホールと大スタジオの 3 つをあわせて、ずっと検討をしている。スタジオだけでも 3 つ模型をつくって検討した。大スタジオのようにお互いに違う機能を持つものをやるのは難しいが、解ききれば、自慢になると思う。 ● 大ホールの迫りについては、市来委員からは「客席ワゴンはいらない」と言われたが、僕らは、そこはお金がかかっても使いやすい方でいきたい。 ● 今日、スタッフを全て事務所に置いてきたのは、突貫でやらないと、間に合わないからだ。これからは僕と吉崎の 2 人で説明に来る。僕らはコンピュータが使えないので役に立たない。他の若い人は 8 人がかりで描いている。 ● 言われたことは全て、機構もよくして、やろうとしている。時間的に間に合うかどうか、そこが難しい。よいものが出来ると思う。 	新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● ライトブリッジについて言えば、例えばジャズバンドの演奏会がある時に、スタインウェイのピアノが置かれた場所を、人が 7m の竿を持ってうろうろするのは、見ているだけで恐ろしい。一度ガタンといったら、ピアノがオシャカになってしまう。安全作業の面からも、備品の保全の問題からも、第 1 ブ 	市来委員

リッジだけは絶対にほしい。	
● そのようなピアノの上に竿が落ちるようなことがあるのか。	市民 H
● 可能性としてある。	市来委員
<ul style="list-style-type: none"> ● スタインウェイは 1,800 万円か 2,000 万円だ。2 回倒すならブリッジがあった方がよい。僕の考え方では、それならば安全側にいこう、ということになる。 ● やれるだけやる。客席ワゴンを止めて、仕上げ材を舞台に合わせるか客席にあわせるかという、ゼブラになるのも避けたい。その代わり、どこか他で削れるところを考えなくてはいけない。僕の出来ることは躯体のいらぬ部分を少しずつ削ることだ。それもかなり違って来る。やれるだけのことをやって、最後に「もはやこれまで」となった時には、備品をあとで買うか、本当に皆で、駅でキャンペーンをはって「バトンを買う会」などをつくるしかない。僕も参加する。物価が上がっている中で、全部の意見を満足させるのは難しい。僕らが趣味的にやっているところは何もない。 ● ただ、一つだけ、色とか、そういうことは任せてほしい。色も気に入らないから変えろと言われると何をしているかわからなくなる。せめてそのくらいは任せてほしい。私たちも一応は日本を代表する建築家だと思っている。機能的な問題や使い勝手は皆さんの意見を全て実現される。また必要のないものは削って機構にコストをまわす。外はコンクリートしかないのでグレーだ。しかし、それ以外の中の色、木の色については、下品な色にはしないので、僕らなりに考えるので、任せてほしい。それだけをお願いする。コストも限界の中で、見栄えが「これがよい」と言うときは任せてほしい。コスト的に無垢の木は使えない。ただ、ベニヤ板を塗装したものでも、塗り方によっては、安い感じにはならない。そうした配慮はする。そして、ライトブリッジなどにはお金をかけようと思う。 ● あとは市来委員たちのアイデアにどこまで追従できるかだ。照明の照射角度なども、僕らと考え方が違うところがあり、構造なども動かして検討してはいけない。あと 10 センチをどうするかなどのレベルで変え続けている。膨大な量のストラクチャーを検討している。あとどのくらいやって、音がどうかを調整して、僕らの威信にかけてでも、小田原らしいというか、東京のホールよりもこちらに来てやる方が面白いと思ってもらえるようにしたい。 ● ただし、お金はきつい。なるべく、あきらめるところはあきらめて欲しい。 ● しかしエレベータも戻ってきた。まわりを少しずつ 5cm でも削っては図面を変えている。変更する事で構造家は全部計算し直しになってしまう。外殻を変えるのは今回が限界とお願いしたい。 ● 以前に大スタジオだけ抜けと言う方がいたが、今さら抜かれてもどうしようもない。僕らのやれる範囲で調整し、説明し、コストにあわせるように、やれるだけやってみる。最悪の場合は、床に、今は石を貼ろうと思っているが、コンクリートになるかもしれない。新潟に行って見ていただければよいが、それも悪くない。減らす場合は、まず仕上げ材から削っていく。機構は最後だ。これから市来委員と検討し、僕らが説得すれば、お金もあったバランスでよいものをつくろうと思っているので、ライトブリッジではなくても乗り込めるものがあれば、よくできたな、と言ってもらえるものになると思う。 ● オーケストラピットも、お金さえ考えなければ、ある方がよい。あとは、指揮者の背丈をどれくらい隠すかで、基礎をどれくらい削減できるかが違って来る。あとはやってみないとわからない。 	新居氏
● 先ほどの周波数の話は、結局素材との関係もあると思う。音楽家は、響きはどう聞こえるか、鼻声に聞こえるかなど、すぐにわかる。一流の音楽家はそれで判断すると思う。小田原市らしいホールというのであれば、あそこは中	市民 B

<p>音がよく出るとか、ジャズの低い音がよいとか、そういうことを感じて「よいホール」というのだと思う。小田原市らしさを出すのであれば、学問を超えて欲しい。音響家以上に、芸術家の感性を入れたホールにして欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 桧森委員が途中退席されてしまったが、小田原市らしさについて、曖昧すぎる回答であったと思う。小田原は二宮尊徳のまちだ。報徳思想のあるまちだ。それが基本に出来るはずだ。一元協同など、協働理論のもとでもある。それをもとにして、互助会組織など、色々なアイデアが出てくるはずだ。それをもとに、ホールの運営の理論があると思う。そこがわかっていなくて、協働の話がされ、レベルが低い協働論になっている。小田原市らしさについて、もう少し学んでほしい。 ● 造園に関しては、年中森で木を切っていて、専門まではいかないが、そういう立場ではある。ここにこの木を植えて育つわけではない。建築屋さんと造園屋さんのやった変な仕事だな、と思う例はいっぱいある。木に関してもそうだが、中途半端や変な妥協は絶対にいけない。木については、あの木は、あと数十年で枯れるか、台風が来れば倒れる。もしもここに木を残すならば、それなりの大きな土地を保証し、土地を養生し、大切にしなければいけない。それならばもっと広い土地をとって、新しい若木を植えて、300年間市民が守っていく方がよい。そうして初めて市民が誇れる木になる。中途半端はやめなくてはいけない。木に関して、あとから新居さんにこういったことを言うのは難癖だと思う。未来のことを考えれば中途半端はやめなくてははいけない。あいまいな中途半端なものになる。 ● 議論のレベルを上げて、小田原市らしさも、一流のものをつくって頂きたい。 	
--	--

質問一覧

樹については樹守りの世界がある。二世の樹を合わせてつくっていくことも必要である。	(※1)
入口庇が半減して、広場の独立性が失われてしまった。樹木を残して庇を通す方法はないか？	(※2)
1. 最前列の床面から見て舞台の高さはいくらですか？ 2. ステージ寸法（除く反響板後方）を教えてください。（何名乗れるかを知りたい。） 3. 「音を良くする」という言い方がされますが、具体的に何をどうやって「音を良くする」のですか？（コンピュータでという答えでなく、お願いします。）主なものをお答え下さい。	(※3)
オーケストラピットは造るのか？	(※4)
（車寄せ）長さが減った分、中を広げたらどうですか？市道 0003 から捻出する（お堀端通りは交通量が少ないので）	(※5)
・ 駐車場周辺の植栽の具体的計画は？ ・ 植栽計画についてはどのような専門家に依頼するのか。 ・ 床、壁面、舞台の素材は何か	(※6)
・ 西相展（展示）の現状ができそうでないが、ギャラリー、大スタジオ、オープンロビーの実寸を示して欲しい。それにより現展示と合わせてみたい。 ・ 京都や金沢の歴史ある日本を代表する都市は樹を大切に文化がある。小田原も城下	(※7)

<p>町として歴史文化のある都市であることに誇りのある都市として樹の文化、樹を大切にすることを知ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリー使用において、有料催事の可能性として、オープンロビーやスタジオをどのように合わせて使えるか。 	
<p>a. 西相展と大ホールのイベントがバッティングした場合、大ホールを使うのに大変不便になるのでは？</p> <p>b. カフェの運営はどうなりましたか？</p> <p>c. 小田原らしい運営って何でしょう？「小田原評定」のように何百年も残るようなよろしくない名前と呼ばれることのないように！</p>	(※8)
<p>ライトブリッジの説明をしてください！又、いくら位かかりますか。（市来さん、新居さんへ）</p>	(※9)
<p>(大ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ終了後の出口付近は、現状で流れはOKでしょうか。 ・トイレの入口、出口を別にして時間内（休憩）に使用が終わるように出来ないか。（管理運営） ・建築費と使用料の関係（専門スタッフを多く入れたら） ・指定管理者不足が現実ではないですか。（？） 	(※10)
<ul style="list-style-type: none"> ・市民を含めた運営組織は早い時期から正式なものとして立ち上げる必要がある。このメンバーについてはボランティアでは無く、過度にならない範囲で謝金等も準備し、その代わりにメンバーとしての義務を設ける様にする。 	(※11)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 近隣の住民の文化・芸術に現在かけている金額の調査があれば教えてください。（シェアソース：今のおさいふの大きさ） 2. ホール企画の事業の収入のうち市民利用以外の割合はどのくらいを見込んでいますか？ 	(※12)
<ul style="list-style-type: none"> ・大ホールの壁厚を減らすということだが、音について影響は？音質、遮音性等に影響がある位ならば座席数を減らすべきであろう。 ・オーケストラピットは手動でも良いから必要。 ・ホールで公立のものと、サントリーホールの様な民間のものとの数量は？公立か直営・公的指定管理者の比率が8割として、民間ホールを含めた全ての中での比率を知りたい。⇒民間ホールの運営ノウハウから学ぶものは？ 	(※13)
<p>ギャラリー内の水屋の位置を。</p>	(※14)

(4) 質疑応答 (進行：文化部副部長)

進 行：

ここからは、会場の方から、ご意見、ご質問等を受けたいと思う。ご発言の前には、お名前と所属団体等があれば、あわせてご紹介頂きたい。ご協力をお願いします。

傍聴者 1：

説明会にこれまで参加してきた。前回の説明会の際に、今回でメだと言われた。今日、この図面は、最終決断の行政側との詰めだと思う。これ以降、設計変更はあるのか、ないのか、それをはっきりして頂きたい。また、周辺の道路について、市民説明会はやる、と行政側からは言われている。いつ、それをやっていただけるのか。

文化部長：

設計変更については、大きなところはこれ以上ない。しかし先ほど舞台設備面でもご議論があったように、そういった面については検討の途上であり、そこについては、舞台設備だけでなく、様々な設備面について、あるいは施設についても細かい部分については、まだまだ、これから実施設計として詳細を詰めていく部分はある。しかし、例えば大ホールと小ホールの位置関係や建物としての大きさなどの基本的なところについては、ここから具体的な作業をさらにつめていくための大きなところについては、すでに固まったと理解している。本日のお話の中でも、特段、そこについての決定的な話が出ていない。このまま進めさせていただく。ただし、細かいところや設備面に関しては、まだ様々な調整の余地があるというところである。

道路については、3回の地域説明会と、ホールとしての意見交換会の場でご説明をしてきた。5月29日、6月26日、7月2日、新居さんに出ていただいた7月6日でもそういったところのお話があった。道路についてのお話の中には、ご説明不足の点も、スタートの5月時点ではあったかもしれない。その後のお話の中で、交通量のご説明、交差点需要率などで、市道2197が廃止後にそれ以外のところに交通負荷がかかった場合の交差点での特段の渋滞が発生しないという振り分けが可能である、等のご説明をさせていただいた。基本的には市道の廃止と、生活道路は4mの幅員で、そのうちの1mを見なし歩道とさせていただく。生活道路の緊急車両の通行の問題、その他の災害時の対応などについては、今日の冒頭のご説明の中でも、新居さんに駐車場をどのように使うかという中で、消防車両の活動状況についても、パワーポイントでご説明いただいた。後からご入場された方はその部分をご覧になっていらっしゃるかもしれないが、既に我々がご説明させていただいた緊急車両の通行についても、新居さんに軌跡図も描いて頂き、通行が可能である旨も、改めて本日、説明させていただいた。

私どもは住民の方々とのお話し合いを重ねてきたが、改めて、まず、市道廃止については平成21年よりも以前までさかのぼる話になる。この敷地をつかって、この施設をつくっていくというコンセンサスが得られた時点で、この方向で進めるということは、多くの方

のご理解をいただいているものと認識している。その後のお話の中で、敷地拡大の用地交渉のプロセスも含めて、地域の方々とお話をさせていただき、この生活道路のあり方についてご意見を頂き、基本的なところとしては、交通量を増大させない、生活環境を変えないで、安全性を保っていくということが、地域の皆さんのまずもっての総意であると感じながら、この準備を進めてきた。説明会の中でも、基本的には交通量が増加することは全ての方が望まれてはいらっしゃらないということだった。その中で、幅員をいわずらに広げるのではなく、歩行者の安全性、身体の不自由な方への配慮、歩道のソフトポールだけではなく、敷地側に一定の歩行者動線を確認し、車椅子のすれ違い、車両が停車している場合の逃げ場なども含めて、新居さんにご検討いただいた。7月6日には考え方、方向性だけをお示ししたにとどまったため、昨日議会の方にもお示しした図面だが、1.4mの敷地内通路をお示し、こちらで進めさせていただくということで、本日、皆さま方にご理解頂いたところだと思う。

説明会については、地域の代表者の方と相談させていただき、必要があれば開催させていただく。そういった内容でのお約束であったと理解している。自治会長さんがお望みにならないのであれば、私どもとしては、その声を遮ってまで説明会を開くつもりはない。そのようにご理解いただきたい。地域のみなさんの総意で、説明会をお求めになるのであれば、私どもは説明を尽くしてまいりたい。さらにご理解を頂くために説明を尽くす用意はあるが、あくまでも地域の皆様方がそれをお望みになるという状況のもとでなくてはいけない。私どもが一方向的に開くものではないと考えている。

傍聴者1：

7月6日の議事録ではないが、私たちの記録では、「市民から、説明不足になっていたということで、周辺住民との対話、意見を聞く」と説明会で約束している。「今後説明会をやります」ということを、そちら側から約束している。しかしもう「ご理解」を前提に話をされている。だから市民からも不信感が出てくる。なんでそういう立場になっていくのか。信用、信頼というのは、そういうものではないのか。7月6日までに3回聞きに来た人が、今の話を聞いたら憤慨する。まして、昨日、議会に説明した、ご理解は頂いた、と。そんなやり方か、小田原市の行政は。私は他の市町村のトップと話をした。廃道も決まらないうえに施設をつくるのか、そんな行政なのか、小田原は小田原城でお殿様だからな、と冷や水を浴びせられた。行政の進め方がおかしすぎる。私一人が怒るのではない。こんなミーティングだの何だのと何年もやっているが、土地の買収に時間がかかっているから時間をかけているようなものだ。こんなものは半年もやれば話はつくものだ。あとは新居先生の言う通り、金さえあれば何でも出来る。日本刀で言えば、刀には鞘があり、鞘にはおさめどころというものがある。その鞘をどうつくるかではないか。そうしなければ話はまとまらない。鞘におさめなければ名刀は名刀でいられない。新居先生もプロならプロで、もう少し、「ここは厳しいからやめましょう」「これだけの空間が必要だ」と言う方が、本当はプロではないか。こんなに狭いところにいっぱい入れて、皆さんの要望だ、要望だ、と

言う。それが本当に世界に誇れる設計士か。私は疑問に思った。「金さえあれば」というのは、誰だってそうだ。打ち出の小槌はないのだ、小田原市の財政だって。先ほどの二宮尊徳の生まれた云々と言っても、その精神はどこにあるのか。皆さん、将来の財政や、高齢化時代、人口減少を考えてみなさい。ただ、文化、文化と言っても、皆の、市民の生活が苦しくなっていった時に、こんなものがどうなっていくのか、考えなさい。視点が建物の中であって、どうのこうのではない。小田原市市民はもっと真剣に考えていかなければアウトだ。そんな意識がなにもないではないか、そのメンバーの中に。誰が責任をとるのか。建ったらそれで終わりか。建ってからどうなっていくのかを考えてみなさい。誰一人そういうことを言っていない。資材がどうだ、こうだと。金さえあれば立派な物はできる。東京よりも立派なものをつくることだって出来る。私は東京のメンバーに資料を見せている。誰がこんなホールをつくるのだ。20年も30年も時代遅れのものをつくるな。恥ずかしい。こんなものでは、小田原まで来ない、新幹線を使ってまで。そういうことだ。もっと真剣に話をしなさい。

傍聴者 2 :

警察協議はどうなっているのか。約束したことを守って欲しい。小田原はお祭りをいっぱいやっている。警察とも手を組んでやっていかななくてはいけない、警備でも何でも。そういう時に、警察協議の問題をないがしろにして、その後、小田原市の観光の警備とか何かで協力してくれると思うのか。警察協議も、どなたかわからないが、署名された方は、今度、事故が起こった時に、私たち市民は、もしも税金をもって補償するとしたら、「わかっているこういう道路をつくったのだろう」と訴えることができる。あなたたちは責任をとらなくてはいけない。税金ではなくて、あなたたちのお金で。それだけははっきりさせてください。

文化部長 :

まず、傍聴者 1 のご発言に対して申し上げたい。例えば、城下町ホールの議論から、市民ホールの議論になり、それに参画して頂いた市民の皆さんは、市の財政状況やコストのことについて配慮をされなかったことは一度たりともない。その議論があったからこそ、逆に、城下町ホールの計画は廃案になり、白紙に戻ったとも言える。多くの方々が、市の財政状況や、市の将来のあり方についても十分にお考えいただいて、その中で新しいホールをどうつくっていくかというところで立ち上がっていただいた。その議論がここまで来ている。たまたま部材や内装の話という非常に細かい所に議論が及んでいたかもしれないが、少なくとも、ここに参加されている皆さんは、そういったことを踏また上で議論に参加されている。申し訳ないが、これだけ長い時間をかけて、ご自分の時間をつかって頂いて、知恵を絞って参加して下さった市民の方々を愚弄する発言だけはやめて頂きたい。

傍聴者 1 :

では逆に言う。それだけやってこれだけのものか。80 億、100 億かかる整備だ。ランニングコストは年間で 3 億 5,000 万円かかっていくのだ。興行収入でどうやって赤字を賄っ

ていくのか。そういうことも全てビジョンに出来ているのか。これから運営管理を煮詰めていくとか、そんなことは言わないでもらいたい。それだけの節点のスタートがあったならば、なぜこんな風になってしまったのか。なぜ 80 億近くのお金がかかるものになってしまったのか。なぜ新居さんは「もっと金があったらできる」という話になるのか。恥ずかしくないのか。前と変わらないのなら、そんな話は出てこないはずだ。運営管理だって、もっと自信を持ってビジョンをつくれればよいではないか。愚弄とか何とかいうのではない。それだったら、もっと数字や何やを出してみろ。

進 行：

大きな声でのご発言はお控え下さい。

傍聴者 1：

では冷静にいこう。皆さんが集まりました。運営管理には 3 億 5,000 万円以上のランニングコストがかかっていく。市民の税金、納税者、納税人口、色々な事を考えて誰が負担していくのか。そういう責任を皆さんは負っている。どうぞ説明してください。

文化部長：

80 億とか、3 億 5 千万という数字はどこに根拠があるのか。

傍聴者 1：

数字については、私は単独で新居設計さんに行った。人件費が約 1 億円と言っていた。それにプラス減価償却を考えなくたって、それくらいのはかかっていくだろう。

文化部長：

今、そこが決まったわけではない、ということ为先ほどご説明した。

傍聴者 1：

決まっていないで、これだけの真剣な投資をする企業がどこにあるか。どこの企業で、そういうことを決まらずして、採用していくのか。

文化部長：

傍聴者 1 のお考えはわかった。しかし、我々がここまで議論してきたことを、もう少し受け止めていただけたらと思う。

傍聴者 1：

それは汲んでいる。汲んでいるからこそだ。皆さん、発表してください、自信を持って。3 年間、4 年間かかってやってきたのではないか。どうやったらこの運営が上手くいくのか。個々の人が、話せるだろう、責任を持って。

進 行：

個人的な論争になってしまうので、この場での議論はやめていただきたい。

新 居 氏：

一つだけ、僕にも言わせて頂きたいことがある。傍聴者 1 は僕を巻き込んでお話しされているが、僕は「80 億円でつくれる」とは彼に言ったことはない。また、僕らの事務所に訪ねて来られたという。もちろん、その時に所員がご挨拶くらいはしたと思うが、内容に

ついて話した事はない。それは、建築家のコンプライアンスに反する。施主の秘密を適当に言うということは建築家としてありえないことであり、それは訂正していただきたい。

僕がお金について言っているのは、この建物は「65億円」と示されていて、実際の今の消費税等を足しているが、その金額に収めるからお金がない、と言っている。今は色々と難しい時節である。オリンピック等の影響で物の値段が上がっている。その中で検討しているから難しく、自分たちでできるだけ無駄なものをはずそうとしているだけだ。それが無尽蔵にお金をかけていくという方法に建築家もっていき、という風に捉えられること自体は不愉快というか、よくないと思う。

この設計が悪いと言われ、この設計が出来ないということになれば、僕らの事務所はなくなる。皆さんは生活を続けていけるかもしれないが、僕ら設計家は、ある時期で仕事を受けて、それをきちんとコスト以内につくらなくてはいけない。皆さんの意見を聞いてはいけないと言われたが、皆の意見を聞かすにはできない。その中でベストを尽くす。

例えば、由利本荘市というところは、ここからずっと遠いところで、9万人のまちだが、施設には60万人が来ている。それで、今度、21世紀美術館で10月から由利本荘の展覧会をやる。大船渡市も被災したが、僕らがつくったホールがよりどころになっている。文化というのは、お金に変えられない価値がある。

僕らの設計のどこが悪いと言われれば、僕は必ず答えられる。しかし、コストが100億になるなど、どこにも根拠がないものを、僕らが言ったと言われると、どうしようもない。例えば、コストのことを他で漏らしたら、建築家の職能が成り立たない。それは訂正して頂きたい。それは一度も言っていない。しかし「このままいくと高いお金になります」という警鐘を鳴らすことは、建築家の職能だと思う。市来委員たちと検討して、できるだけ今提示されている金額に近づけるか、それを切ることはないとしても、その中には納まるように、色々なものを削っていつている。その中で先ほど説明したのは、皆さんが何かをやめない限り、これ以上削るものはない、ということだ。また、今さら大スタジオをやめるのは難しい。僕らがこのプログラムを提案したわけではない。その中でも、自分たちなりに工夫して、ランニングコストについても、設備を細かく分けることで、僕らの知っている限りのところでローコスト化していると思う。それが積み上がるのは仕方がないが、それが3億かかるということはない。僕らが運営管理の検討をすることもあるが、それについては、今、僕らは聞かれていなし、今回は専門委員の方もいるので、その方達に聞きながらやっている。

道をどうするかという問題は僕らの仕事ではないが、これで安全に通ることができるかどうかは、消防等にも話を聞いて、技術的に出来る範囲について丁寧に検討して、解決ができていると思う。もう少し、皆で仲良く話して、全体に、やっていただきたいというのが僕の考えだ。

今の小田原市の市民ホールは、1995年頃からホールが変わってきているので、1世代前か2世代前の劇場だ。これ以上、子供たちがここで練習するのは良くないと思う。今の市

民ホールでは音痴の子ができるくらいで、ろくなものはできないと思う。今、設計しているものでも、出来るのは4、5年後だ。それよりも遅れると小田原で文化的なものは育ちにくい。何回聞かれても、僕らはベストを尽くしているとしか、言えない。音にしても、何でも、きちんとしたものをやれば、次世代の人たちは育つと思う。それは自分の信念があるからやっている。辛くないかと言われれば辛い、頑張ってやっている。

事務所に市民の方が来られて全部情報を流している、という感じで言われるとそれは心外である。そこだけは違うというのは皆の前で言って頂きたいと思う。

僕らが今目指しているものは、65億円程度である。その中で、出来るだけ頑張る。技術者としては、その中でもよりよいものをつくるのが使命だと思う。ライトブリッジも、最初は「お金で無理だ」と言ったが、「それだけは何とかしてくれ」と言われたので、どこかを削っている。そうやって実現しようと、膨大な時間を使ってやっている。そうして過剰なものをするということはない。その中で、比喩として、「お金があれば何でもできる」と言った。それは僕も訂正する。目指しているのは今のコスト内だ。コスト内を目指してやっている、だから辛い、という話だと解釈していただくと有り難い。

コンプライアンスを守らない建築家だと言われると問題になってしまうので、そこだけは訂正していただきたく、皆さんには関係ないかもしれないが、あえて言わせていただいた。

文化部長：

他にももう2点ほどあった。市民説明会のお約束については、7月2日の2度目の幸地区の説明会の時に、先ほど私が申し上げた道路についての地域説明会については、地域の代表の方々とご相談しながら、お求めがあればやらせていただく、と申し上げた。7月6日の説明会の際は、芸術文化創造センター全般に係る説明会は、本日もそうだが、基本設計や基本計画を検討していた時ほどの頻度にはならないが、進捗状況を含めて、折に触れて皆様方にご説明をさせていただき、あるいはこうした意見交換会を開かせていただく、あるいは公開の形での委員会を傍聴いただく、ということを含めて、今後も説明をさせていただき、ということをお願いしたのだと思う。2種類のご説明会であったかと思う。誤解を招いたかもしれないが、そのように申し上げているので、ご理解いただきたい。

警察協議については粛々と進めさせていただいている。特段、そこで大きな課題が出ているということはない。警察から頂く指摘事項に対して、お答えできる材料を揃え、協議を整えていく段階にある。ご指摘頂いたとおり、今後もお祭り等警察のご協力が必要な場面があるので、異論のないように、警察とはご相談を進めていくつもりであるので、ご理解をお願いします。

傍聴者1：

実際に新居設計さんに伺った際に、「65億というのは圧縮されています」と、圧縮予算だと聞いた。だいたい30%は圧縮されていると。実質はこれくらいのホールをつくるには80億くらいはかかるものだ、ということをおっしゃった。

<新居事務所コメント>

原則的に単独で市民の方と事務所でお会いすることはありません。

この話は、時間と事実を記憶違いされているのだと思われます。

まず、傍聴者 1 からお電話があり、事務所に伺いたいとのことでしたが、伺いたいという日には新居と吉崎が不在だとわかっていたこともあり、その旨を告げ来社をお断り致しました。

しかし、当日突然来社されたため、新居未陸が対応致しました。けれども、当社でもそうですが、新居未陸もコンプライアンスがあるため、そのようなことは申し上げていません。

また、この時点では基本設計の終了前でしたので、おそらく最初の頃の市民ワーキングにおいて、消費税、労務費の増加によってこのままでも 72 億円程度になる可能性がある」と説明したものをご自分で拡大解釈されているのだと思います。

一般の市民の方々に誤解を招く発言は、いつも中立、公平に行っている私達の事務所としては納得できません。

一般の市民の方々にも是非建築家のスタンスや職能を理解して頂きたいと思い、このコメントを入れることをお願いしました。

コンプライアンスもあるかもしれないが、私も真剣だった。しかし、そこまでおっしゃるのであれば、口頭でのことでもあり、訂正させていただく。

文化部長から先ほど、大まかに大きな点はもう変更はない、あとは細かいところだけが変更になる、と聞いた。それもわかる。そうすると、車寄せの手前の松や桜は今日の段階では切らないということになっている。これは大きな問題であると思う。この図面では切らない状況になっているので、これは大きな変更ではなく、確定と解釈してよろしいか。

当初は舞台設備プロポーザル方式でホールをつくっていかうという話だった。しかし、今年に入ってから新居設計さんも苦しい中で、プロポーザル方式であるとなかなか厳しいということで撤廃してきた。新居先生はコストの面で色々と苦慮されている。そうした業者が積算をしてきて、総額でいくら、ということが決まり、議会を通す。しかし、これだけの工事ということになれば、一般の入札になる。先生の息のかかった業者ばかりの選定にはならない。オリンピック等で人材が足りない。東京方面では建設会社が倒産もしている。そういう中で、先生の息のかかった人だけのチームで建てることのできるならば安心してお任せできるかもしれない。しかし、行政の制度としては一般競争入札である。どの業者が落とすかもわからない中でコストも考えなくてはいけない。私はそこまでわかっているから言っている。皆さん、そのメンバーの方はそういうことまで全て承知して討論されてきているなら、どうぞ、皆さん、責任を持って発表してくださいと言いたい。

私は会計事務所で何年かやってきた。ゼネコンでもないし、小田原市の A ランク、B ランクの入札者でもないが、そういう会計の原価計算を全部見てきている。本当に税金がど

う使われるか。先生が苦慮されているのがわかるからこそ、皆さんの中でも鞘に収めるべきところは収めないと、出来るものも出来なくなると言っている。

新居先生はスタジオについては自分のプログラムではなかったが、今はこうなって、どうにもこうにも潰すことはできない、と言われた。しかし、設計者選定の際の条件で、大ホール、小ホール、スタジオの3点セットで、応募をされた。そして勝ち取ってきた。先生の意志で云々ではない。では、誰の市民の意志で大スタジオなんてものを入れたのか。それこそ、皆さんが望んでいたものなのか。市民がこんなものを望んでいたのか。一部の人間は集会や説明会に行けても、限度がある。サラリーマン等は普段の日は集まらない。

文化部長：

まず、最も誤解されているところから始める。大スタジオは、そもそも基本構想、基本計画をまとめていく中で、市民の皆さん、専門家の方々と協議をしていく中で、創造系の施設、大ホールの練習場としての位置づけ、更には小ホールを可動席にするかしないかというような色々な議論を進める中で、公演も出来る自由度の高い客席レイアウトを使いながら、平土間で公演もでき、展示にも使えるという多目的な非常に用途の高い施設として、創造系というものが基本構想の中で大きく方向性としてある中で、基本計画をまとめていくプロセスの中で、小ホールをどういうものにしていくかといった議論が焦点になった過程を経て、今の位置づけが決まった。

先ほど、新居さんがおっしゃった「大スタジオを今になって抜けと言われている」というのは、たぶん、施設レイアウトが窮屈になっていったので、この大スタジオを何とかできないかというご発言があった、ということだと思う。

新居氏：

僕が言ったのは、大スタジオはもともと入っているものであり、抜くことはないということ、そして抜いても大してかわらない、という意味で申し上げた。

もう一つだけ、「僕の息のかかった業者」という風に言われたことは非常に残念だと思う。色々な建築家がいるが、僕らの事務所に来ていただければ、きれいなところでもないし、いわばスラムのようなところでやっていることがわかると思う。それは、設計料を全てつぎ込んでやっており、誰かと癒着したこともないからだ。プロポーザルをやめてもらったのは、僕らは生涯で、入札以外でやったことがないからだ。同じ施工会社ともほとんど1回以上やったことはない。2回やったくらいが最高で、施工会社は誰でもよい。入札の時に、僕らの息のかかった人が何かをするということはない。市民説明会では、前回は建築家の方が僕らの基本設計がよくないということを言われた。すごく残念だと思うのは、日本の建築家は全部適当にやっている人ばかりだというイメージがあることだ。[声がつまる。] 僕らとしては、できるだけ一生懸命やっている。癒着している、とか言われるのは、残念です。

文化部長：

新居さんの名誉に関わることであり、どうか、そこはご理解いただきたいと思う。新

居さんにはここまでやって頂いており、我々としても感謝のことばもない。

先に松についてのお話しをさせていただく。歴史的な由来をおっしゃる方もいらっしゃる。私どもでは、少なくとも根拠となっている稲葉日記については調べさせていただいた。確認した限りでは、稲葉日記の記述においては、稲葉正則が、三の丸土塁という三の丸小学校から1号線にかけての土塁であるが、こちらに松の植樹を命じたという記述がある。そのあと、それを生垣にかえなさい、と言った記述もあった。場所についても、この松がどうか、というところになると、非常に断定しづらい。稲葉日記によれば、そこではないかもしれないというところである。私どもも勉強不足のところがあるかもしれない。松については、その問題を捉えるのではなく、松そのものについて捉えていきたい。新居さんから皆さんの市民の総意をあわせて、その場所で残していくということであれば残して行こうというお話しもあった。また、緑を大切にする、景観を大切にするという中で、そこを残していこうというお話しもある。一方では、近年、公共施設の中で様々な倒木の事故も起きている。木の安全性にも配慮しなくてはいけない。そこを確認させていただいた上で、総合的に判断させていただくことになる。基本的には、木をあえて切ろうとは思っていない。残していく方向性の中で、木の安全性も確認していく。完全に決まったわけではない。そういうものを、段階をふんで、整えていくとご理解頂きたい。

コストの問題は傍聴者1のおっしゃるとおりだと思う。その中で皆さまも頭を悩ましており、新居さんも再三再四、警鐘をならしているポイントだと思う。今後の経済状況については予断を許さないところがあり、そこは、皆さんだけでなく我々も含めて意識を持っていく。新居さんもその後の設計の中でも更にコストダウンを図っていくとおっしゃっていたので、それが舞台設備の検討や、実施設計の詳細な議論の中でさらにコストダウンを図っていく面があると思う。それはおっしゃるとおりであり、誰も否定できない懸念材料である。それは共有をさせていただき、その中で進めていかざるを得ない。そこはまだまだ予断を許さない。その局面は我々も予測不可能なところがある。実施設計を進めていくなかで、それをどう成立させるかということは、実施設計の詳しいところでやっていただくしかないと考えている。それは、ご指摘のとおりだと思う。

進 行 :

時間が相当に超過してしまった。質疑を終了させていただく。ありがとうございました。

3 閉会

- ・今後のスケジュール（次回意見交換会 10月13日、管理運営専門分科会 9月24日）
- ・閉会

以 上